

<過去1週間の動き>

(9月3日～9月9日)

USD/RUB: 60.400～62.500

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、対ドルで、前週末比概ね横ばい。週明け5日のルーブルは急落で始まった。同日「漏洩」したロシア政府の内部報告書が、「巡行」シナリオで、2023年(名目?) GDPが、2021年対比-8.3%の水準で底を打ち、「圧迫下」シナリオでは、2024年に、同-11.9%まで落ち込むと試算したことが、ルーブル売りを誘った。ロシア当局者が、従来、表立って表明していたロシア経済見通しと比較して、明確に弱気な見通しを示していたからだ。ただし、レシェニコフ経済相の解説によれば、同試算は、「(西側経済制裁などに対して)一切の善後策を打たなかった場合」を前提とした、あくまでも「机上の空論(頭の体操)」とのこと。従来、欧州に向かっていった燃料(原油、天然ガスなど)輸出を、中国、インドなどに振り向けたなどの現状は反映されていない模様。更に、7日、ウラジオストクで開催された東方経済フォーラムで、プーチン大統領は、「ロシアは(ウクライナ戦争で)何も失っておらず、今後も失わない」などと強気な見方を繰り返した。結局、ルーブルは、5日の僅か数時間売り込まれただけで、6日以降、じり高推移を支配的とした。9日には、ロシア中銀が、年初来(1～8月)の経常黒字が1,831億ドルにまで積み上がったと公表。経常収支の月次データは公表されないものの、第1四半期、第2四半期の数字がそれぞれ+683.8億ドル、+701.0億ドル(速報値)と発表されているので、7/8月の2ヵ月で+446.2億ドル(単純な計算で四半期に669.3億ドルのペース)という高水準を維持したことになる。明確にルーブル押し上げ要因と読める数字だが、同日のルーブル堅調に、どこまで貢献したかははっきりと判別できなかった。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/7	13:00	外貨準備高(USD)	8月	565.7bn		576.9bn
9/9	13:30	国民福祉基金(USD)	8月	196.6bn		198.3bn
	16:00	GDP(前年比)	Q2 P	-4.1%	-4.0%	+3.5%
	16:00	CPI(前年比)	8月	+14.30%	+14.30%	+15.10%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(9月10日～9月16日)

USD/RUB: 59.50～61.50

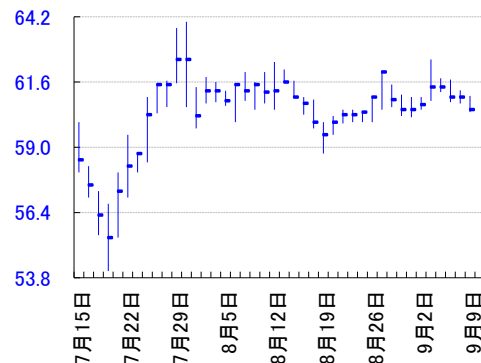
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、方向感を欠いた横ばいを予想。対ドルで60を中心とした、極めて狭い値幅にルーブルが膠着して、既に6週間以上を数える。この間も、上述、経常黒字の高止まり(ルーブル押し上げ要因)、中国向け天然ガス輸出の支払い通貨を、(従来のドルから)ルーブル50%、人民元50%に即日切り替えるとの報(潜在的にはルーブル売り要因? 6日)などが聞かれたが、いずれも新味はなく、足元の均衡を崩すきっかけが思い当たらない。9日発表されたロシア8月CPIは、前月の前年比+15.10%から同+14.30%へと、ほぼ市場予想に沿った減速を示した。週次PI統計が、7月初来、9週間連続で前週比マイナスを記録していることなどから、物価減速は予想できたことだった。予想通りの物価統計に、-50b.p.が予想されている、16日のロシア中銀金融政策委員会にむけた市場の思惑にも、大きな変化はなかった。もともと、金融政策動向や原油価格動向など、従来であれば直接大きな影響をルーブルに及ぼす要因も、ウクライナ開戦(2月)以降、ほとんど材料視されなくなっている。16日に向けても、-50b.p.を予想の中心としながらも、市場の一部には据え置き予想から-75b.p.まで予想する向きが幅広く存在する。利下げの有無、幅がすぐさまルーブルの値動きに影響する可能性は低そうだが、その幅にロシア中銀にとって「望ましい」ルーブル水準を読み取ることは、中期的な方向感を占う上で意味のあることのように思われる(大幅利上げ=現行水準よりもルーブル安水準を望ましいと考えている可能性)。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/12-9/13		財政収支(RUB/年初来)	8月	150.0bn		+481.9bn
9/16	10:30	1週間物入札レボ金利			7.50%	8.00%

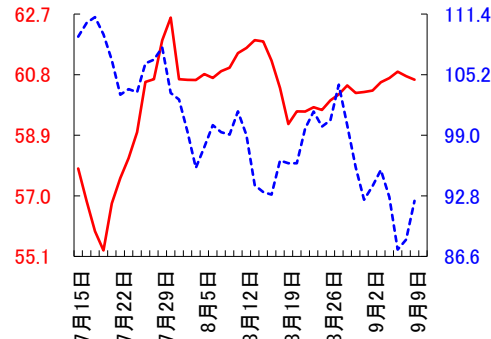
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUBの推移 (日足/ロンドン7:00～17:00)

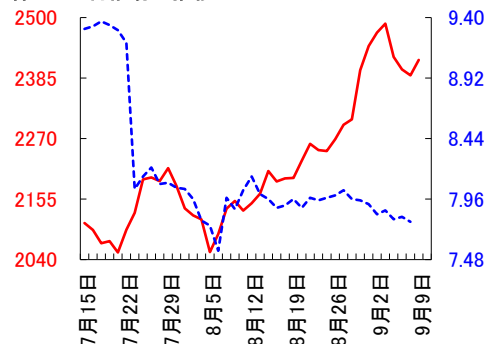


株ルーブル/バスケット推移 (ロシア中銀公示)

原油価格推移 (ブレント直物)



株式/金利相場の推移 (MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		8.00%
成長率(GDP/前年比)	Q2	-4.1%
失業率	7月	3.9%
消費者物価(前年比)	8月	+14.30%
小売売上高(前年比)	7月	-8.8%
鉱工業生産(前年比)	7月	-0.5%
貿易収支(USD)	1月	+21.2bn
経常収支(USD)	Q2	+70100mln

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。